
詩集「陽光」

紫夜河 太桜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

詩集「陽光」

【Nコード】

N6182K

【作者名】

紫夜河 太桜

【あらすじ】

「未来」を主なテーマとした詩集です。

日輪（前書き）

詩集「星影」と同じように、今回も六つの詩を収録します。

どれか一つでも気に入って頂ける作品がありますように……………

日輪

?・日輪

広大な空の真下に
私達は生きている

幾つもの感情を胸に抱いて
この今を生きている

通り過ぎた過去に宿る後悔

今、笑いあえる時間

未来を進む期待と不安

そんな思いたちが胸中で渦巻く

痛みとか

悲しみとか

幸せに触れて

私達は少しずつだけど

成長していく

「大人になる」ってコトの

理解はまだ中途半端だけど

気付かないうちに

一歩ずつ

歩きだしているんだよね？

強い人になりたい

大きな人になりたい

静かに願いながら

私は胸を張って

太陽の下を歩いていく

日輪（後書き）

いかがでしたか？

よろしければご感想をお寄せ下さい。
お待ちしております。

蒼天の下にある幸せ

？・蒼天の下にある幸せ

今まで好きだったはずの毎日が突然「怖い」と感じた

悩むことで一杯の現実の何処かで

人間は必ず傷付ひといている

何も見たくないから背を向けて

逃げるようにして隠れて

だけどそれでも

生きていかないといけない世界が

今、ここに存在しているから……

優しく見守ってくれている蒼天の下

勇気を出して未来に走っていこう

泣きたいなら涙を

嬉しいなら笑顔を

嘘を吐かずに胸に希望を灯して

幸せな日常　自分で探そう

今まで知らなかったモノに対して

幾つもの不思議を覚えていく

生きていることを確かめられる

人間であることが嬉しいと感じた

生まれてきて

たくさん学んで

自分の力で前に進んでいく

光の満ちている世界の中で

胸を張っていられるように……

優しく見守ってくれている蒼天の下

人に伝える「ありがとう」は幸せの証

喜怒哀楽に流され迷ったとしても

それは一つの人生

深い森の中

光を求めて歩いていく

幸せな日常 自分で見付けよう

温かいこの地球ほしでも

時には辛いことがある

だけど独りではない

仲間はずぐ近くにいます

数えきれない程の心が

世界の価値を変えていく

良くも悪くも全て

最後には自分の想いが決めるから

いつも何処かに光があることを忘れない

幸せな日々は目の前にあるはずだから

蒼天の下にある幸せ（後書き）

なんかグダグダな気がします……。

この詩は、私が趣味で詩を書き始めてすぐに書いたものを書き直したものです。

そのため、前よりはマシにはなりましたが、グダグダ感はなくなっていない気がします。

永久への道

? 永久への道

静けさと共に降る雪は

いつかの夢
……

曇りだす天空

灰色に染めていくのは誰の仕業?

ゆっくりと時を経て

ほら

幸せ降り積もる

「約束だよ」と指切りをして

その手を離れた……

涙が溶かしていく

積もりに積もった喜びを

触れていたはずなのに

今はその温もりすら消えてしまった

笑顔と共に……

闇へと誘われて凍り付く幸せ

この手から離れていく

永久へと続く道は

もう、閉ざされた気がした

「大丈夫」と君の声が

聞こえて、前を向いた……

光が空に満ちる

曇りなんて打ち消して

ふとした瞬間に

忘れていた温もりが蘇っていく

笑顔と共に……

心が晴れ渡って

明るい未来を映し

触れていたはずなのに

絶望は消えていた

永久への道に

夢、再び………

白雪 光を宿し

景色を包み染める

重ねた手に秘める

この想い

確かな夢

溢れていく

笑顔と共に……

静けさと共に降る雪は

未来描き ……

永久への道（後書き）

いきなり暗い詩が飛び出してきました……。

重い内容で、何を言いたいのかわからない詩ですので少し、不安です。

次回もどうぞ。

太桜は頑張って執筆を続けます。

どうかこれからもよろしくお願ひします m (——) m

梅雨の切れ間

?・梅雨の切れ間

青い色が抜け落ちた灰白の空から

前触れもなく

穏やかに雫が舞い落ちる

世界に刻むリズムは時に優しく

時に思い出したかのように激しくなる

地上の紫陽花はその音に踊り

静かな世界が賑やかになる

雨音が遠ざかり空を見上げた

そこには青い空を背に

七色の橋が輝いていた

……これを投稿するのは四月。

時期外れですね。

“紫陽花はその音に踊り”とありますが、これは紫陽花の花が雨に打たれて揺れている、ということですよ。

内容としてはかなり短いものです。

“気持ち”について書いた詩ではありません。
今回は情景を描いたものです。

そんな詩ですが何かを感じて頂けると嬉しいです。

TRY

? TRY

太陽から隠れて

君は何をしているの？

人知れず流した涙

格好悪くないよ

君が未来へ進むために必要だったなら

それは大切な輝く宝物

一番格好悪いのは

その涙を無駄にすること

やってみてもいないのに

「出来ない」で片付けたら

前に進めない

ただの弱虫だよ

恐れることなんてない

何故怯えなければならないの？

「間違える」なんて

人間誰だって必ずあるのに

悔やむときは

まずやってみてからじゃないと

何も知らない子供のまま

強くなんかなれない

「知らない」で済ませられるほど

この世の中は甘くない

未知への t r y が「知る」ための鍵

その鍵で閉ざされた扉を開けば

新しい世界が

そこには広がっているはずだよ

その「新しい世界」は

いつか君が見る理想^{ゆめ}

辿り着くための道しるべは

君が流した努力の証

TRY（後書き）

今回の詩はとりあえず「励まし」の詩ですね。

やったことのないことにはどんどん挑戦してみないと後で後悔したりもするし、自分がレベルアップしませんからね。

でも、何かを初めてするというのは結構勇気が必要だったりします。自分で書いたくせに、私はこの詩を読むと背中を押された気になります。

この詩が誰かを勇気付けることが出来ますように……。

さて、詩集「陽光」は次で最後の詩です。

ご感想等はいつものように大歓迎です！！
お待ちしております。

独リノ未来（前書き）

今回の詩が「陽光」のラストです。

独リノ未来

?・独リノ未来

波紋広がるこの世界に

新たなる光宿れ……

冷たい 凍えそうな言葉に

涙は隠せない

声も上げず

誰かに助けを求めることも出来ずに

傷つけられたこの心が

静かに血を流して

溢れ出る孤独を

ただ 噛み締めていた

何故　　こんなにも寒さを感じるのだろうか

温もりを手に入れること

難しすぎるよ……

波紋広がる　　生きていく世界に

優しい太陽昇れ

再び訪れる朝に不安など抱えずに

笑顔でただいられるなら

安らぎこの胸に宿って

温かな日々を

眠れぬ夜無く過ごせるだろう

うつむく横顔から見える

閉じて震える瞳

浮かぶ雲に

声をかけることもしないで

立ちすくむ自分がいた

どれだけ悩んでいるだろうか

唇噛み締め

迷っていることが情けなくて

苛立ち 拳を握った

助けだす勇気が出せなくて

苦しい想い 振り払って

決意した時

悲鳴が聞こえる今日の世界は

明日には無くなるだろうか？

傷つく人を見たくない

いつかは叶うかな？

きっと手を差し出せるなら

笑顔 増えるはずだから

泣く人も減るはずだよ

絶対に 必ず……

波紋広がる暗き世界に

輝く願い満ちれ

闇夜が明け 暮れる日々を

泣かせずいられるように

恐れなど吹き飛ばして

幸せを心に持って

大切な未来を

迷い無く掴み

明日を迎えよう

現実にならない幻想に囚われないで

苦しい現実を変えられなければ

未来にあるのは

現在と同じ悲しみだけだから……………

独リノ未来（後書き）

現実から目を逸らしてはいけない。逃げ続けていても何も変わらな
いのだから……………。

さて、今回の詩が「陽光」のラストです。

……………最後で何でこんな重い詩がきたんでしょう？

作者にも分かりません。

私の詩の多くは、だいたい最初が暗くなりがちです。
今回はまさにそれ……………。

この詩集の中で、どれか一つでも気に入って頂けるものがあります
ように……………。

ご感想等は、この作品を含め私の作品全体でお待ちしています。

私の作品の中で何か一つでも気に入ったものがありましたらご気軽に
感想をお寄せください。

本当に一言だけでもいいです。それだけでも私は毎度のことながら
飛び跳ねて大喜びしますので（笑）

よろしくお願ひします（礼）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6182k/>

詩集「陽光」

2010年10月11日03時16分発行